

## (2) 薬剤師の活動と多職種連携の重要性について

就実大学薬学部 臨床薬学研究室 准教授 田坂祐一

医療の高度化や複雑化に伴い、医薬品の安全使用と適正使用、最適な薬物療法の支援など薬剤師の薬物療法におけるリスクマネージャーとして果たす役割や責任が高まっている。これらの背景から薬剤師業務も多様化し、従来の薬剤部門内での対物中心の業務（調剤や医薬品管理）に加え、薬剤師が病棟や外来部門（外来化学療法室や薬剤師外来）で薬物療法へ積極的に関与し、職能を発揮する場面も増えている。近年では、チーム医療への薬剤師の参画が日常のものとなり、病院機能によっては医療安全管理部門への専従薬剤師の配置が義務化されるなど、多職種連携での薬物療法や安全管理が実践されるとともに、タスクシフト・タスクシェアの推進にあたり、各職種の職能を理解した一層の連携が求められている。本講演では主に病院での薬剤師の活動や役割について紹介するとともに、多職種連携による薬物療法における問題解決事例を題材に多職種連携の重要性について考察する。